

2019年度 ANNUAL REPORT



公益社団法人 日本フィランソロピー協会

2019年度アニュアルレポート発行にあたって	3
はじめに	4
▶企業のCSR支援事業	
従業員のボランティア・マッチングプログラム	6
(1) ボランティア・マッチングサイト「ボランティアウェブ」	6
(2) 個別企業向けボランティアのコーディネート	8
ステークホルダーの寄付マッチングプログラム「フィランソロピーバンク」	9
(1) 非営利団体への寄付	9
(2) 奨学金プログラム(個人向け)	11
助成支援	12
個別企業の社会貢献活動支援	12
顕彰プログラム「企業フィランソロピー大賞」	15
研修・セミナー	
定例セミナー	16
関西セミナー	17
経営者向け「エグゼクティブセミナー」	17
Stone Soup Club	17
企業からNPOへの物品寄贈「あげます・もらいます」	18
調査・報告書	18
▶共生社会づくり事業	
郡山市農福連携推進モデル構築事業(福島県郡山市からの受託)	19
▶個人の社会貢献活動推進事業	
誕生日寄付	20
フィランソロピー名刺	21
青少年社会貢献活動支援	
チャリティーチャレンジ・プログラム	22
学校の寄付活動支援・社会貢献活動支援	23
▶出版事業	
機関誌『フィランソロピー』	24
職員紹介	25
資料編	
寄付マッチングプログラム(NPOへの支援)	26
財務データ	28
会員数/役員	30

注：本文における企業名は、すべて50音順にて記載させていただきました。

各種セミナーやイベント等の開催実績に記載の個人の所属および役職は、特に注記のない限り開催時のものです。

2019年度アニュアルレポート発行にあたって

当協会は、民主主義社会を「一人ひとりが、社会の中で大切にされながら、同時に、誰もが、周囲の課題解決のために、支え合い助け合って役割を果たすことが出来る社会」と位置づけ、企業および従業員、さらに地域の中の個人の参加も視野に入れながら、多様な社会貢献の機会を提供しております。2019年度の活動をご報告申し上げます。

【ステークホルダー資本主義時代の企業フィランソロピー】

SDGs への「関心」が「行動」に移りつつある昨今、昨冬のダボス会議では、これからの資本主義は、ステークホルダー資本主義へと移行するべきである旨が、謳われました。これを、当協会では以下のように考えています。

「自然環境・社会環境の深刻な現状を考えると、企業とそのステークホルダーは、未来の社会を見据えて、パートナーとして、共によりよい社会づくりをすることが不可欠である。企業は、そのためのプラットフォームであり、それを担う核となるのは役員・従業員である」

そういう視点で、2019年度は、従来にも増して、従業員のボランティアや寄付のマッチング事業を拡げています。さらに、単発の支援から、NPOの基盤整備なども含めた事務局支援ボランティアへと、真に役立つ存在として進化することをこころがけました。その結果、企業の役割も拡がり、プラットフォームとしての可能性も拓けると考えています。

【フィランソロピーのコーディネーションを線から面へ】

従来、企業とNPOをつなぐ事業に加え、地域創生を見据えて、2019年度より農福連携事業を開始いたしました。農業での障がい者やひきこもり、刑余者など就労弱者の就労と、それを受け入れる農家をサポートしています。誰にも「居場所と出番のある地域」づくりをめざし、農業と福祉を軸に、行政、企業、NPOなどの協働推進のためのコーディネーターとして、一般市民の関与も含めた事業展開をしております。

【個人の寄付文化の醸成に向けて】

2019年度より「誕生日寄付」推進事業を始めました。企業の創立記念日などでも活用され始めています。従来からの青少年の「寄付育」も地域をつなぎ続けてまいります。多世代が連携して「誰も取り残されない社会」実現のために、お互いへの信頼と感謝を寄付というかたちで表し、他者を思いやり、分け合う文化を醸成してまいります。

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大と共に明け、誰もが当事者になった今こそ、民主主義社会の在り方が問われています。当協会も、自然と人、人と人との共生を具現化するための努力を続けてまいります。

どうぞよろしく願い申し上げます。

2020年8月1日

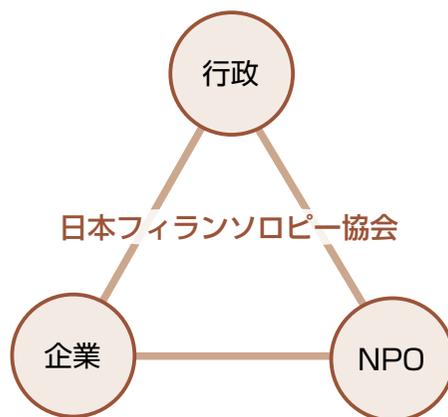
公益社団法人日本フィランソロピー協会
理事長 高橋 陽子

これまでのあゆみ

- 1960年 第一次安保闘争を機に、民主的社會を実現するためには、公正な世論を形成することが重要との考えから、ジャーナリスト・学者などの有識者を中心に、不偏不党の立場で自由闊達な議論をする場を提供する勉強会を開始。
- 1962年 内閣総理大臣より公益法人としての認可を受ける。
- 1990年 **フィランソロピー元年**（※1）
- 1991年 「企業市民室」創設、企業フィランソロピー推進事業を開始**
フィランソロピーを民主主義の原点と据え、企業フィランソロピーを通じて、個人の社会参加推進につなげることを事業の柱として新たに出発する。
企業の担当者向けセミナーを開始。
- 1992年 機関誌『月刊フィランソロピー』（現『フィランソロピー』）創刊
- 1994年 「日本フィランソロピー協会」に改称**
- 1995年 **阪神・淡路大震災発災・ボランティア元年**（※2）
神戸市長田区室内小学校の避難所の運営
- 1998年 知的障がい者のアートと暮らし、記録映画『まひるのほし』製作
顕彰事業「まちかどのフィランソロピスト賞」創設
- 2000年 視覚障がい者、高齢者などへの音訳サービス「声の花束」開始
- 2003年 **CSR元年**（※3）
顕彰事業「企業フィランソロピー大賞」創設
個人の社会貢献活動推進「フィランソロピー名刺」開始
- 2005年 「まちかどのフィランソロピスト賞」に青少年部門創設
- 2007年 寄付マッチング「フィランソロピーバンク」創設
文化庁主催「アート展・障がいのある人による作品たち」開催
- 2009年 新公益法人制度の下、公益社団法人として認定**
「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」開始
- 2010年 企業を中心とした勉強会「Stone Soup Club」発足
国際標準化機構がISO26000制定
- 2011年 **東日本大震災発災**
「学校の寄付育支援活動」開始
「復興応援 キリン絆プロジェクト」開始
「復興応援 チャリティー・リレーマラソン」開始
- 2013年 「関西セミナー」開始
- 2014年 「サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業」開始
- 2015年 **国連「持続可能な開発目標（SDGs）」制定**
ボランティア・マッチングサイト
「ボランティアウェブ」開始
- 2016年 **熊本地震発災**
「子どもの貧困を考える勉強会」開始
「寄付川柳」開始
- 2018年 **平成30年7月豪雨発災**
- 2019年 個人の寄付活動推進「誕生日寄付」開始
「郡山市農福連携推進モデル構築事業」（福島県）開始

はじめに

わたしたちは、
“個人フィランソロピー”を、
健全な民主主義を創出するための
原点と考え、
企業の従業員をはじめ、
ステークホルダーである
一人ひとりの個人が、
**「より良い社会創造のために
自ら考え、助けあいながら、
課題解決に向けて行動する」**
ことを推進します。

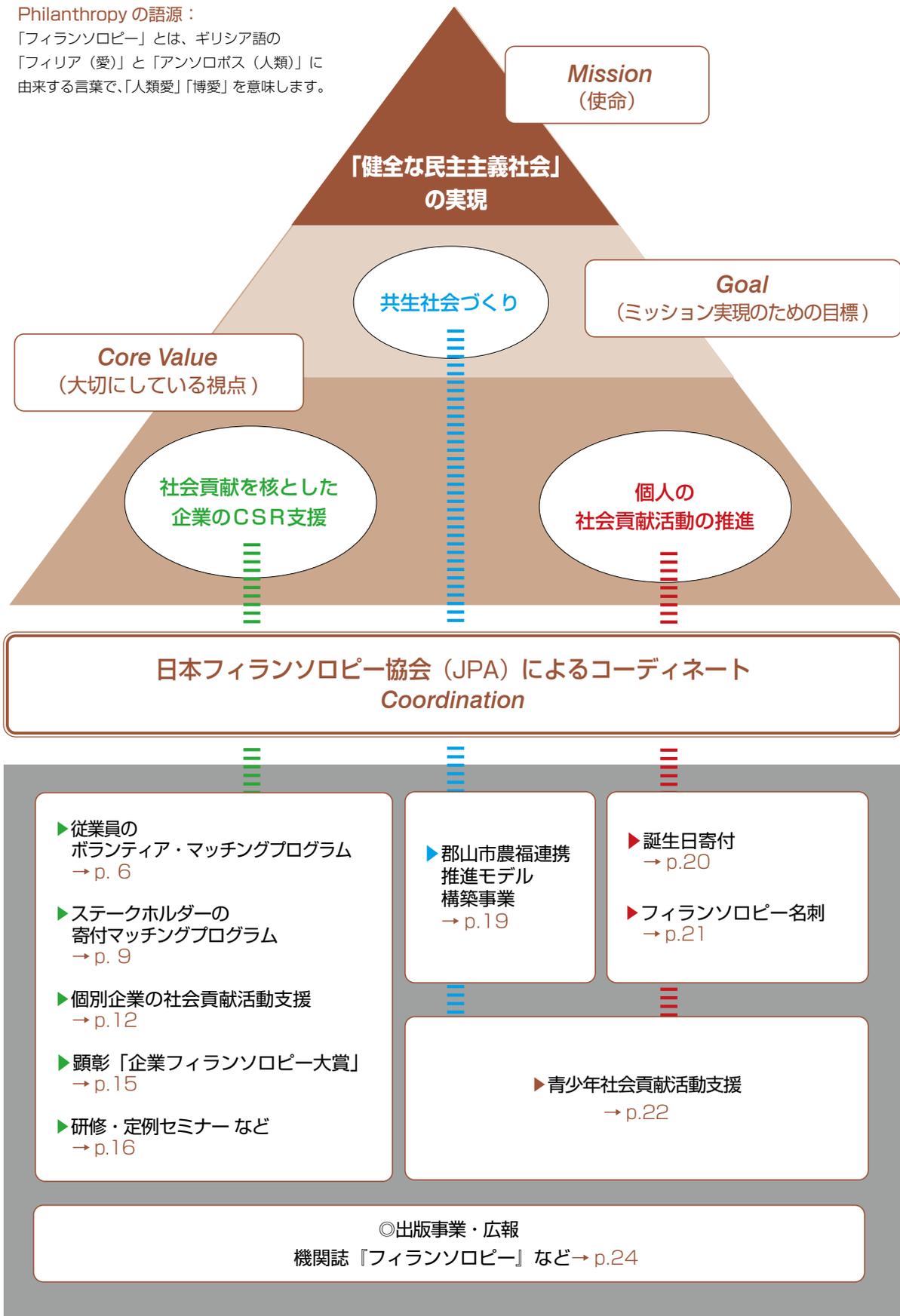


行政や企業セクターとは独立したカウンターパートとしての非営利セクターの成長のため、個人の参加を促しバランスの取れた社会の実現を目指します。

- （※1）1980年代後半から、企業フィランソロピーやメセナ等、企業の社会貢献活動が盛んになり、1990年、経済団体連合会の「1%クラブ」「企業メセナ協議会」「大阪コミュニティ財団」が発足、「フィランソロピー元年」と呼ばれた。
- （※2）数多くのボランティアが活躍。特に、社会人や学生がボランティアとして参加し「ボランティア元年」と呼ばれた。
- （※3）ナイキの児童労働問題、エンロン事件などを象徴として、コーポレートガバナンス時代に入った。多くの企業で、CSR担当部署が整備された。

Philanthropy の語源 :

「フィランソピー」とは、ギリシア語の「フィリア (愛)」と「アンソロpos (人類)」に由来する言葉で、「人類愛」「博愛」を意味します。



企業の CSR 支援

企業の社会貢献を核にした
CSRを支援し、
従業員が参加する社会貢献プログラムを
提供しています。

従業員のボランティア・マッチングプログラム

従業員のNPOへのボランティア参加を支援します。プログラム企画、受け入れ団体の紹介および調整、事前・事後研修、運営協力などを行ないます。

2019年度の参加人数は、「ボランティアウェブ」で **2,924名**

「個別企業向けボランティアのコーディネーター」では **1,286名**

総計 4,210名の従業員のボランティアをつなぎました。

(1) ボランティア・マッチングサイト「ボランティアウェブ」

<https://www.philanthropy.or.jp/vweb/>

当協会独自の ボランティア・マッチングサイトです。参加者は、ウェブサイトから多様なボランティアプログラムを選び、直接申し込むことができます。



★ご利用企業からコメントをいただきました！

2019年よりボランティアウェブを活用していましたが、2020年度からは MUFG グループ 5 社へ利用対象を拡大しました。

ボランティアウェブの活用を通じて、一人でも多くの社員が主体的かつ自発的にボランティア活動に取組み、さまざまな社会課題に触れることで、人間力向上や業務への活力を得る機会の場合となれば、と思っております。



株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ

サステナビリティ企画室 調査役 やまこし まき 山越 真希さん (左)、とみみつ きみこ 富満 紀三子さん (右)

ボランティアウェブのご利用企業

■ 株式会社 NTT ドコモ

2016年4月より通年利用。

■ サントリーホールディングス株式会社

2017年3月より通年利用。2019年度からは、「ボランティアウェブ」とつないだ社内ボランティアサイトを立ち上げて、年2回のボランティア推進月間を開始。

■ 株式会社ジェシービー

2011年より通年利用。「JCB 社会貢献プログラム」のボランティア受付管理を「ボランティアウェブ」によって継続。会議室で行なうボランティア企画運営のサポートも実施。

■ 日本たばこ産業株式会社

2019年3月より通年利用。

■ 日本ロレアル株式会社

2019年5月末～6月の期間限定利用。

全世界でのボランティア強化月間のプログラム受入先の調整、および申込受付業務を受託。首都圏 630 名、大阪 34 名、名古屋 6 名のボランティアを提供。

■ 株式会社電通

2019年4月より通年利用。

■ 株式会社 LIFULL

2019年7月より通年利用。

■ 株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ

2019年4月より通年利用。

(2) 個別企業向けボランティアのコーディネート

個別の企業向けに、ニーズに沿ったボランティアプログラムの企画や実施の支援を行ないます。

■ アクセンチュア株式会社

新入社員研修内で行なうボランティアプログラム等、従業員が参加するボランティアに関して、NPO等の活動をマッチング支援。



『刺しゅう de ボランティア』で
乳児院に寄付するスタイに刺繍

■ アステラス製薬株式会社

全国の事業所から依頼を受け、地元でボランティア活動を企画するときのパートナーを調査・推薦。

のべ34団体を推薦し、3事業所でボランティア活動を実施。

■ クーパービジョン・ジャパン株式会社

「絵本のシール貼り」プログラム実施。

- ・2019年5月：役員・部長クラスにて
- ・2019年9月：本社から全国の拠点をつないで実施



海外に絵本を届ける活動で、
絵本への翻訳シール貼りを

■ 積水化学工業株式会社

全国にある工場や子会社などの社内プログラム（環境保全や国際協力）の企画・運営サポート。

■ 大日本印刷株式会社

従業員が被災地で行なうボランティアプログラムの企画・実施を支援。

- ・2019年7月 宮城県仙台市・東松島市・女川町
- ・2019年9月 広島県呉市・坂町
- ・2019年10月 熊本県益城町・南阿蘇村
- ・2019年12月 岩手県陸前高田市



陸前高田市の名勝高田松原の再生活動地での作業

■ 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

社内プログラムを実施。

- ・2019年8月：キワニスドールづくり
- ・2019年9月：セカンドハーベスト名古屋



キワニスドールづくりのあと、
参加者の感想と笑顔の写真を

ステークホルダーの寄付マッチングプログラム 「フィランソロピーバンク」

企業や個人の寄付を非営利団体につなげたり、個人への奨学金として給付しています。

(1) 非営利団体への寄付

<https://www.philanthropy.or.jp/pb/>

2019年度は 15 社、1 個人が利用し、のべ 145 の非営利団体に寄付をつなぎました。

総額 165,674,103 円

※寄付先については、資料編 p.26～27 をご参照ください。



フィランソロピーバンクのプロセス



2019年度フィランソロピーバンクご利用企業

アメリカン・エクスプレス・ インターナショナル・ インコーポレイテッド	2016年熊本地震の復興支援。百貨店オリジナルギフトカードのチャージ金額1%を、公益財団法人熊本YMCAの「震災復興支援基金」に寄付。
株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ	社内で実施したバレンタイン・チャリティプログラムの収益を3団体に寄付。
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで、環境分野のNPO 34団体に寄付。
株式会社ジェーシービー	「[5]のつく日。JCBで復興支援」を通じていただいた寄付を、2019年度(第9回)は、東日本大震災復興支援のために活動する29団体に配布。
デロイトトーマツ コーポレートソリューション 合同会社	東日本大震災復興支援の一環として、南三陸町図書館に図書カードを寄贈。
株式会社電通アドギア	火災で焼失した首里城の再建支援として、従業員募金と会社からの拠出により寄付。
東京海上日動 あんしん生命保険株式会社	社員の給与天引き、代理店でのグッズ販売の一部を難病患児支援団体、認知症啓発団体計3団体に寄付。
TOYO TIRE 株式会社	環境基金公募2年目。環境問題に携わる団体を公募の上、選考し助成。1団体上限150万円。申請団体35団体のうち、審査の結果14団体に助成。
Fidelity Asia Pacific Foundation	NPOの基盤整備を目的としたプログラムによる寄付。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算したものと、社員からの寄付を合算し、みちのく未来基金と全国10ヶ所の重度心身障がい者施設に寄付。
ブリティッシュ・アメリカン・ タバコ・ジャパン合同会社	北海道胆振東部地震の支援のため、社員募金を北海道厚真町で活動する団体に寄付。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付プログラムで、コミュニティ・次世代・環境の分野で活動する15団体、および社員がボランティアをしている5団体に寄付。

※寄付先のNPO団体名は資料編 p.26 を参照

★ご利用企業からコメントをいただきました！

弊社では「人を支える」を社会貢献活動の柱の一つと位置づけ、2016年よりフィランソロピーバンクを通じて寄付を行なうとともに、寄付先のボランティア活動にも多くの代理店さん・社員が参加しています。

今般、新型コロナウイルス感染症により影響を受けられた方々を支援する寄付の検討にあたって、多くの情報を頂きました。いつも弊社のサステナビリティ方針に沿った情報・ご助言を頂き、ありがたく思っております。



東京海上日動あんしん生命保険株式会社 人事総務部 総務 G 課長代理 たなか そう 田中 聡 さん

<p>明治安田生命保険相互会社</p>	<p>「愛と平和のチャリティー・コンサート2019」で集めた募金の寄付先団体として、東北3県で「次世代育成」の分野で活動する6団体を選定。(寄付金の配布は2020年度を予定)</p>
<p>株式会社ゆうちょ銀行</p>	<p>環境分野で住民と共に課題解決に向けた活動をする13団体を選定。</p>
<p>株式会社LIFULL</p>	<p>誰一人取り残すことなく一人ひとりの“したい暮らし”を応援するための寄付プログラムをスタート。ドメスティックバイオレンスを受けている人々、虐待を受けている人々、難民、貧困により住生活に困っている人々を支援する9団体に寄付。</p>

(2) 奨学金プログラム

<https://www.philanthropy.or.jp/anshin/>

■ 東京海上日動あんしん生命保険株式会社

2016年度から、東京海上日動あんしん生命保険株式会社の創立20周年記念「東京海上日動あんしん生命 奨学金制度」および「東京海上日動あんしん生命 幼児教育支援制度」の公募、審査、給付金の配布を含む運営を支援しています。

★ 奨学金制度 (給付型)

- 対象：疾病により保護者を失い、大学等への進学に経済的支援を必要とする方 (年間30万円)
- ・2019年度は、前年度までに給付が決まった奨学生143名に、計4,290万円給付。
 - ・2019年7月より募集を開始した2020年度奨学生58名内定。

★ 幼児教育支援制度

- 対象：未就学の遺児および一定の年齢で、経済的支援を必要とするお子さまを養育する方
- ・株式会社ベネッセコーポレーションの「こどもちゃれんじ」を一定期間無償で提供。(毎年30名募集)

助成支援

■ 田辺三菱製薬株式会社「手のひらパートナープログラム」

2019年度に8期目を迎え、333の指定難病を対象に公募。助成プログラムの設計・公募・審査を含む運営を支援。

助成金額合計：難病患者団体およびその支援団体15団体に対し、総額1,000万円助成。

■ 日本たばこ産業株式会社「JT NPO 助成事業」「JT SDGs 貢献プロジェクト」

・「JT NPO 助成事業」の継続応募の書類審査を実施。

・「JT SDGs 貢献プロジェクト」2020年1月に開始された助成プロジェクトの外部事務局として、立ち上げ準備および運営支援を実施。格差是正／災害支援／環境保全の3分野において、国内で実施する事業を対象に助成。

個別企業の社会貢献活動支援

■ アンファー株式会社「SAVE SOAP プロジェクト」

衛生教育の一環として石鹸を配布し、啓発用の洗うと絵が浮き上がる絵本も活用して、2018年5月からカンボジア北部のレアビヒアにて展開。10,003個の石鹸配布完了（2020年3月末まで）。

※「認定特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会」との協働。

■ 王子ネピア株式会社「ボランティア演芸会」

業務用大人オムツ等の売上の一部による支援で、全国の介護施設で、全日本おむつ団と称する東西10名の落語家による演芸会「ボランティア演芸会」を開催。その実施をサポート。

2019年度開催数：56回

■ 敷島製パン株式会社「国産小麦ゆめちから栽培研究プログラム」

「国産小麦ゆめちから栽培研究プログラム」の一環で、2019年6月16日に利根工場見学（千葉県野田市）が行なわれ、食料自給率を考えるワークショップを企画・ファシリテート。

参加校：開智日本橋学園中学・高等学校、東京成徳大学中学・高等学校、
浦和実業学園中学校・高等学校

■ 大和ハウス工業株式会社「エンドレス募金の運営支援」

従業員寄付プログラム「エンドレス募金」公募団体の書類チェック（財務面）を実施。

2019年度評価団体数：15団体

■ 東京海上日動火災保険株式会社「新入社員研修」

2019年度新入社員579名の新入社員研修について、全国13地域で、復興支援や耕作放棄地の活用、持続可能な森林整備などの研修プログラムを作成。

実施日：2019年4月22日～25日



北海道下川村にて

■ 東京ガス株式会社「森里海つなぐプロジェクト」

2017 年度より実施する、森、里山、海、をつなぐ環境社会貢献活動「森里海つなぐプロジェクト」全体の実施を支援。有識者を含む運営委員会を設置し、プロジェクトを推進。

2019 年度は、都内中学生による山村での「きき書き」プロジェクトへの支援に加えて、東京湾のアマモ場の再生活動にグループ社員とその家族が参加。

さらに、活動に賛同した顧客のポイント寄付を得て、地域で環境保全活動をする団体を支援。



アマモの再生活動（種まきの様子）

■ 日本製紙株式会社「森と紙のなかよし学校」

菅沼社有林（群馬県片品村）で、小学生親子を対象に、第 24 回目の環境教育プログラムを実施。
実施日：2019 年 9 月 7 日～8 日

■ 東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」 チャレンジド・スポーツ支援事業

東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として、2014 年 9 月から、チャレンジド・アスリートの支援を実施。東北 3 県（岩手・宮城・福島）を対象に、各県の行政担当者や障がい者スポーツ協会からのニーズの把握、アスリートや競技団体とのネットワーク構築を担い、各プロジェクトの発展に努めています。



車椅子バスケットボール体験



アンプティサッカー体験

プログラム	内容
チャレンジド・アスリート奨励金	・第 6 期 2020 年度は 21 団体、個人 46 名に奨励金を給付。約 3,600 万円。個人部門のべ 294 名、団体部門のべ 129 団体に助成。計約 2 億 600 万円。
チャレンジド・スポーツアカデミー	・障がい者スポーツに対する理解を深めるため「アスリート・ビジット」として、チャレンジド・アスリートなどが 3 県の学校を訪問。子どもたちへの講演や車椅子バスケットボール競技体験会を 7 回実施。 ・一般向けに、岩手県陸前高田市で「チャレンジド・スポーツ体験教室」として、6 つの競技体験とアスリートのトークショーを実施。
チャレンジド・スポーツ育成サポート	・障がい者スポーツ育成のため、車椅子スポーツ導入教室を、岩手県、宮城県で実施し、障がい者スポーツのすそ野拡大に向けた講座を実施。 ※ 2017 年度まで指導を受けていた受講生が講師役として関わり始めました。

■ フィリップ モリス ジャパン合同会社「災害復興支援ボランティアの受付業務支援」

災害復興支援ボランティアの受付業務支援。

会場：宮城県名取市、石巻市、岩手県釜石市、愛媛県宇和島市

■ プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社

「PGF 生命オープンアカデミー」運営支援

都内 2 校での授業実施支援と、2020 年度に向けたプログラム企画のための調査を実施。

- <授業実施> ・日出学園中学校・高等学校 中学 3 年生 96 名
 ・武蔵野大学附属千代田高等学院 高校 1 年生 71 名

■ 「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」 ～ NPO リーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～

アメリカン・エクスプレス財団の助成を受けて実施。卒業生は累計で 431 名。



総合監修：米倉 誠一郎 氏

法政大学大学院

イノベーション・マネジメント研究科教授

一橋大学イノベーション研究センター 特任教授

一橋大学名誉教授

① 「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー 2019」 第 11 期

東京：2019 年 5 月 30 日～6 月 1 日 参加者：NPO リーダー 29 名

福岡：2019 年 8 月 1 日～8 月 3 日 参加者：NPO リーダー 29 名

② 「フォローアップ・セッション」 第 11 期

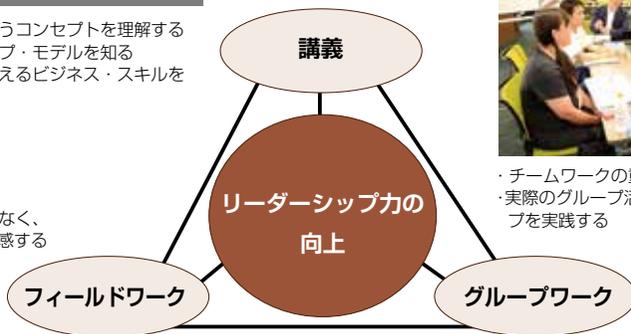
東京：2019 年 12 月 10 日 参加者：19 名

福岡：2020 年 3 月 3 日 参加者：15 名 ※ビデオ会議にて実施

カリキュラムの構成と狙い

- ・リーダーシップというコンセプトを理解する
- ・一流のリーダーシップ・モデルを知る
- ・リーダーシップを支えるビジネス・スキルを身に付ける

- ・知識の習得だけではなく、現場感の重要性を体感する



- ・チームワークの重要性・有効性を理解する
- ・実際のグループ活動を通じて、リーダーシップを実践する

顕彰プログラム

<https://www.philanthropy.or.jp/award/17/>

第 17 回「企業フィランソロピー大賞」



贈呈式：2020 年 2 月 21 日 学士会館（東京都千代田区）にて

サイトへ

2003 年創設の「企業フィランソロピー大賞」は、社会課題のために、自社の経営資源（人材・ノウハウ・技術・情報など）を有機的・持続的に活用した企業の社会貢献活動を顕彰しています。規模に関係なく地域を越えて、さまざまな企業の CSR 経営のヒントになることを願い、優れた企業を広く社会に発信することにより、公正で温もりと活力ある社会を次世代に伝える一助としたいと考えます。

企業フィランソロピー大賞

第一勲業信用組合（東京都新宿区）

ほくりょう
北良株式会社（岩手県北上市）



理事長 新田信行氏とともに



代表取締役社長 笠井健氏とともに

企業フィランソロピー賞（企業名 50 音順）

- | | | |
|--------------|------------------|-----------|
| 【里山イノベーション賞】 | 石坂産業株式会社 | （埼玉県三芳町） |
| 【つなぐ灯賞】 | 大阪ガス株式会社 | （大阪市） |
| 【笑顔を届けま賞】 | 株式会社クラレ | （東京都千代田区） |
| 【未来への道しるべ賞】 | 阪急阪神ホールディングス株式会社 | （大阪市） |
| 【地域モビリティ賞】 | 株式会社光タクシー | （福岡県北九州市） |

選考委員	委員長 國部 克彦	神戸大学副学長／経営学研究科教授
	井手 明子	日本電信電話株式会社 常勤監査役
	佐藤 雄二郎	株式会社共同通信社 代表取締役社長
	渋澤 健	コモンズ投信株式会社 取締役会長

（敬称略・肩書は贈呈式時点のもの）

研修・セミナー



定例セミナー

<https://www.philanthropy.or.jp/seminar/>

1991年度にスタートし、8月を除く毎月開催しています。主に企業のCSR・社会貢献担当者を対象に、SDGsやESGなどさまざまなテーマで、各分野で活躍する学術研究者や先進事例を有する企業担当者を講師に迎え、講師や参加者とのネットワーキングの機会も提供しました。

2019年度の開催数：12回、参加者：のべ403名

開催回・開催日	テーマ／講師
第355回 2019.4.17	CSR基礎講座Ⅰ「SDGs時代の社会と企業～持続可能な社会づくりに求められる企業の視野と戦略～」 ＜講師＞川北 秀人氏（IHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表）
第356回 2019.5.16	CSR基礎講座Ⅱ「ESG投資の最新動向～投資家とともに目指す2030年の社会」 ＜講師＞水口 剛氏（高崎経済大学 経済学部 教授）
第357回 2019.5.29	CSR基礎講座Ⅲ「社員ボランティアの立場から企業のCSRを考える」 ＜講師＞山崎 直子氏（UBS銀行東京支店 東京第一営業本部 ウェルス・マネジメント本部 部長）
第358回 2019.6.11	CSR基礎講座Ⅳ「CSR担当者の役割と課題」 ＜講師＞木村 純子氏（キヤノン株式会社 CSR推進部 部長）
第359回 2019.6.24	CSR基礎講座Ⅴ「SDGsの本質を失わないために～CSR担当者が果たすべきこと～」 ＜講師＞川廷 昌弘氏（株式会社博報堂DYホールディングスグループ 広報・IR室 CSRグループ推進担当部長）
第360回 2019.7.25	「SDGsの本質～『誰一人取り残さない』社会の実現のために～」 ＜講師＞黒田 かをり氏（一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事）
第361回 2019.9.18	「障がい者雇用への新しい道筋」 ＜講師＞金子 健二氏（株式会社マーキュリー）／ 那部 智史氏（NPO法人AlonAlon 理事長）
第362回 2019.10.8	「社内にSDGsを浸透させる～社内参画を進めている企業の事例から学ぶ～」 ＜講師＞小谷 美樹氏（積水ハウス株式会社 CSR部 部長） 喜納 厚介氏（パナソニック株式会社 CSR社会文化部事業推進課 課長）
第363回 2019.11.12	【施設訪問】「社会インフラとしての老人ホームに学ぶ高齢者問題」 ＜講師＞岩城 隆就氏（株式会社さんわ、シルバーヴィラ向山代表取締役、社会福祉士）
第364回 2019.12.5	「ESD（持続可能な開発のための教育）に社内浸透のヒントを学ぶ」 ＜講師＞阿部 治氏（立教大学総長補佐、同社会学部教授、ESD研究所所長、元日本環境教育学会 会長）
第365回 2020.1.16	「東京オリンピック・パラリンピックのレガシーをSDGsの視点から考える」 ＜講師＞星加 良司氏（東京大学大学院 教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 准教授）
第366回 2020.2.5	「企業による文化・芸術支援の意義と課題を考える」 ＜講師＞片山 正夫氏（公益財団法人セゾン文化財団 理事長）

関西セミナー

大阪での開催数：2回、参加者：のべ56名

開催回・開催日	テーマ／講師
第34回 2019.7.24	「社内にSDGsを浸透させるヒント」～社員参画を進めている企業の事例から学ぶ～ ＜講師＞小谷 美樹氏（積水ハウス株式会社 CSR 部 部長） 喜納 厚介氏（パナソニック株式会社 CSR・社会文化事業推進課 課長）
第35回 2019.11.11	「SDGsで自分を変える、未来が変わる～SDGsを自分ごととして考える～」 ＜講師＞川延 昌弘氏（株式会社博報堂 DY ホールディングスグループ 広報・IR室 CSR グループ 推進担当部長）

経営者向け「エグゼクティブセミナー」

2019年度は、「SDGs時代の経営と人材育成を考える」をテーマに、5回シリーズで開催しました。

企業を取り巻く社会経済環境は大きく変わり、ESG投資の流れをみても、CSRの取り組みに対する企業トップの理解や行動は不可欠になっています。さまざまな業種・地域・規模の企業役員にご参加いただき、充実した議論を交わすことができました。



講師の久保和孝氏

開催回・開催日	テーマ／講師
第1回 2019.10.25	「深化するCSR調達 国際的な潮流と課題」 ＜講師＞足立 直樹氏（株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役）
第2回 2019.11.14	「自立した従業員と共に創るCSR経営」 ＜講師＞山崎 直子氏（UBS銀行東京支店 東京第一営業本部 ウェルス・マネジメント本部 部長）
第3回 2019.12.11	「経営者視点からのCSR/SDGs取り組み～企業価値向上のための実践」 ＜講師＞大久保 和孝氏（株式会社大久保アソシエイツ 代表取締役社長、公認会計士・公認不正検査士）
第4回 2020.1.23	「SDGs達成にむけて金融の果たす役割とは～ESG投資の深化から」 ＜講師＞河口 真理子氏（株式会社大和総研 調査本部研究主幹）
第5回 2020.2.20	「SDGs時代の企業経営におけるダイバーシティと人権」 ＜講師＞村木 厚子氏（津田塾大学客員教授／元・厚生労働事務次官）

Stone Soup Club(ストーン・スープ・クラブ)

主に企業のCSR担当者の企画による視察、対話型セミナーなどの勉強会です。

テーマ：企業人と団体との交流会
～真に役立つボランティア活動を実現するために～

開催日：2019年12月12日

内容：① 参加団体によるプレゼンテーション
② 質疑応答とディスカッション



※名前の由来は、ヨーロッパの寓話「Stone Soup」から。大きな鍋（場）を用意するので、さまざまな人がさまざまな具材（知恵）を持ち寄って、おいしいスープを作ろう（新たな何かを生み出そう）！という思いを込めています。

企業からNPOへの物品寄贈「あげます・もらいます」

企業から物品などの提供を受け、必要とするNPOへ橋渡しする「あげます・もらいます」事業を行なっています。2019年度は、13社からの提供品を39団体へ寄贈しました。

2019年度寄贈企業と物品一覧

企業	寄贈物品
アステラス製薬株式会社	バスタオル
株式会社インフォメーション・ディベロプメント	お米・絵本
株式会社 J-オイルミルズ	文具類、自社商品
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	デスクライト、エプロン、メモ帳、ハサミ、毛糸
ジョンソン・エンド・ジョンソン グループ アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社	文具類
ジョンソン・エンド・ジョンソン グループ ヤンセンファーマ株式会社	ファイル類
楽天株式会社	楽天オリジナルグッズ



クリアファイル



デスクライト



エプロン

調査・報告書

企業における個人寄付促進の方法の一つとして、マッチングギフトの普及をめざし、アンケート調査を実施し、報告書を発行しました。

アンケート調査の概要

調査対象企業	500社 (公益社団法人日本フィランソロピー協会会員企業と、 東洋経済「CSR企業ランキング」上位500社等)
回収数(回収率)	126社(25.2%)
調査実施期間	2019年11～12月
調査方法	アンケートをメールおよびWeb経由で依頼し回答をメールで回収



共生社会 づくり

社会の誰もが、かけがいのない存在として尊重される
「居場所と出番のある地域」づくりを目指します。

郡山市農福連携推進モデル構築事業

福島県郡山市からの受託事業

<https://www.philanthropy.or.jp/koriyama/>



農福連携とは、農家および農業団体と、社会福祉法人や特定非営利活動法人などの福祉団体が連携して、障がい者や高齢者らの農業分野での就労を支援する取り組みです。

この農福連携において福島県郡山市から委託を受け、当協会では、1999年度以降実施してきた、障がい者福祉にかかわるさまざまな支援と、東北復興支援において培った農業支援のノウハウやネットワークを活用して、ビジネスモデル構築に取り組んでいます。

障がい者や高齢者だけでなく、ニートや引きこもりなど、さまざまな理由で働きにくさを抱える「就労弱者」に対して、農業を通じて就労機会を提供し、ビジネスモデル構築後には、地域住民や消費者の参画による農福連携事業が構築され、農業の再生や地域創生に寄与することを目指します。

履行期間 : 2019年8月～2022年3月

受託金額 : 2019年度：8,800,000円

活動テーマ : 2019年度「農福連携の実現に向けた課題抽出と参加農家・福祉団体などの拡充」

活動内容 :

(1) 就労弱者（障がい者、引きこもりなど）の施設外就農体験

参加者 : 3農家、4団体26名



椎茸菌床作業

(2) 「ノウフクフォーラムふくしま」開催

目的 : 農業・福祉の関係団体への周知と事業参加者確保

開催日 : 2019年11月28日、29日

参加者数: 約150名



フォーラムでのディスカッション

(3) 先進団体への視察研修の実施

- ・埼玉福興株式会社（埼玉県熊谷市）
- ・京丸園株式会社（静岡県浜松市）
- ・コミュニティ・ファームなないろ畑（神奈川県大和市）



埼玉福興株式会社 2019年9月実施



京丸園株式会社 2019年12月実施



なないろ畑 2020年2月実施

個人の 社会貢献活動 推進

一人ひとりの市民が社会をつくる一員として、主体的に社会参加・社会貢献するフィランソロピー社会の実現を目指して、個人フィランソロピーを推進します。特に、次世代育成のために、青少年社会貢献活動に取り組んでいます。

Thanks Birthday & Happy Donation! 誕生日寄付

<https://www.birthday-donation.jp/>



誕生日寄付とは

「与えられたいのちに感謝する日として、誕生日を少し違う発想で捉えなおし、「子どもたちの今を支え、未来に希望をつなぐ」ための活動です。誰にも平等にあるいのちを授かった日＝「誕生日」に、いのちに感謝し、寄付という形で表す習慣を広げたいと考えます。

2019年度 寄付金額合計：10,839,715円（寄付者人数 235名）

※ 2019年7月6日に開催した誕生日寄付チャリティーパーティのチャリティーオークションによる寄付金額 531,500円含む

- [カテゴリ別寄付金額]
- ① 生きるを支える： 4,555,105円
 - ② 学びを支える： 2,075,450円
 - ③ 外国人を支える： 4,209,160円

【2019年度の寄付先について】

① 生きるを支える

虐待や家庭崩壊などにより、厳しい現実から逃げてきた子、風俗産業や暴力団に頼らざるを得ない子、もう一度、人生をやり直したい子どもたちを守り支える。



社会福祉法人カリヨン子どもセンター
一般社団法人若草プロジェクト

② 学びを支える

貧困や家庭環境の悪化などから学習機会を奪われ、学習意欲を失った子、貧困から中学校などに行けなかった大人の学び直しなどの学習支援。



福島に公立夜間中学をつくる会
一般社団法人 岡山に夜間中学校をつくる会

③ 外国人を支える

いじめ、非行、引きこもり、親からの虐待などにより苦しんでいる海外にルーツを持つ子どもたちの居場所づくりや学習支援。



特定非営利活動法人
大泉国際教育技術普及センター
非営利活動法人 青少年自立援助センター
YSC グローバル・スクール

【「誕生日寄付」 寄付者からのメッセージ】

- ◎両親を早くなくした自分がここまで生きてこれたのも、たくさんの人たちのおかげです。少しですが困っている人にエールを届けたいです。
- ◎歳を重ねた日に、社会に少し役に立てる、そんなことがうれしく思えるようになりました。
- ◎縁あってこの国で育ちつつあるすべての子どもたちが、いつものびやかでいられますように。一人ひとりの子どもが、自分の心を支えられるニホン語をしっかりと身につけられますように。
- ◎「68 回目の 5 月、大好きな季節。ところが今回の GW は新型コロナ騒動で一変、StayHome 週間という辛い月に。世の中の有様も社会の考え方も変わっていくことだろう。でも素晴らしい自然と日々の何気ない人間の営みの大切さは、これからの子どもたちにも元気に引継いでいってもらいたい。(抜粋)

フィランソロピー名刺

<https://www.philanthropy.or.jp/meishi/>

障がいや難病などハンディキャップのあるアーティストの作品を利用した名刺を制作・販売。
 名刺の受注で得た一部収益を、アーティストや所属団体に還元。名刺の印刷も福祉作業施設に委託し、障がい者の可能性と経済的自立の支援につなげています。
 2019 年度の制作件数は 376 件。
 ウェブサイトの「作品カタログ」から作品を選び、お申込みください。



名刺作品：「かえる 水色」TAKUO 作
 (一般社団法人障がい者アート協会より)

★協働する福祉作業施設からコメントをいただきました！

当センターの IT 就労訓練室は、障がいのある方や若年者等を対象に、実務訓練の場を提供しています。
 私たちは、フィランソロピー名刺を受託することで、受注管理、制作、発送等の事務訓練の機会を得ています。訓練生からは、「正確にデータを管理する大切さが学べた」「名刺制作業務で就労できた」など、とても良い経験ができたとの感想をいただいています。



公益財団法人 新宿区勤労者・仕事支援センター 福祉部コミュニティ事業課 IT 就労訓練
 大泉 知英さん

作業の様子



【名刺検品作業】
 一枚一枚検品し、品質保持に努めています。



【宛名書き作業】
 宛名の書き順、送付文章の作成、同封など、ビジネスマナーを習得する機会になっています。



【梱包作業】
 実習生が、手作業で一つひとつ丁寧に梱包し発送。軽作業が苦手な方も、時間をかけて梱包しています。

CHARITY 2019 CHALLENGE PROGRAM!!

募金・寄付を核にした社会貢献ワークショップ型 「チャリティーチャレンジ・プログラム」

特別協賛：EY新日本有限責任監査法人

助成：公益財団法人 JKA

協賛：アクセンチュア株式会社、株式会社ジェーシービー、
トヨタ自動車株式会社、株式会社ブリヂストン

Phase1. 被災地スタディツアー（2019年5月11日～12日）

東日本大震災発災後の復興の経緯を学び、「今なお、誰が残り残されているのか」「なぜ取り残されたのか」について考え、課題としました。

- ◆場所：宮城県石巻市、女川町
- ◆参加者：56名（東京都、千葉県、宮城県、福島県の中高生、大学生ボランティア、企業ボランティア）
- ◆協力：石巻日日こども新聞 太田倫子氏、女川町長 須田善明氏、



石巻市石巻日日新聞（ニューゼ）にて、手書きで発行した「6枚の壁新聞」について聞く

Phase2. 東京ワークショップ（2019年7月13日～15日）

5月に気づいた課題について、中高生ができることを考えると同時に、募金活動、ユニバーサル運動会を開催。

新たな気づきとともに、自分たちは何をすべきかを発表しました。

- ◆場所：東京都内
- ◆参加者：100名（東京都、千葉県、宮城県、福島県、熊本県からの中高生、大学生ボランティア、企業ボランティア）
- ◆協力：石巻日日こども新聞 太田倫子氏、カルビー株式会社、サントリーホールディングス株式会社、東京大学



都内で募金活動を実施

Phase3. 西日本豪雨被災地視察ツアー（2019年11月16日～17日）

2018年の西日本豪雨被災地であり、原爆の記憶を70年伝え続ける広島で、「災害の記憶を伝えること」について考えました。

- ◆場所：広島県坂町、広島市（平和記念公園）
- ◆参加者：32名（東京都、宮城県、福島県、熊本県からの中高生、大学生ボランティア）
- ◆協力：特定非営利活動法人ひろしま NPO センター



広島市で原爆ドームを見ながら、原爆について伝える語り部の話を聞く

学校の寄付活動支援・社会貢献活動支援

(1) 寄付活動支援（「寄付育」）

地域課題を題材にした課題解決学習を通して、子どもたちの「生きる力」を育てる教育機会を創出、普及する事業です。

・実施事項

- 事業設計の相談
- 寄付先候補団体の推薦
- 校外での依頼状配布
- 募金寄付活動のサポート



団体によるプレゼンテーション

- ・実施校 : 東京都杉並区立杉並和泉学園
- ・学年・人数 : 9年生（中学3年生）55名
- ・期間 : 2019年6月～9月
14時間+贈呈式



寄付先を決めるディスカッション

・概要

- ① レクチャー（地域の社会課題について）
- ② 地域で活動する団体による活動紹介
- ③ ディスカッション
（地域のこども食堂を寄付先に決定）
- ④ 募金活動
（募金額：273,545円）



街に出て募金活動

(2) 社会貢献活動支援

主に中学2年生を対象とする「職場体験学習」の受け入れ企業を紹介しました。

- ・実施校 : 東京都江東区立深川第二中学校2年生
- ・受入企業 : NECソリューションイノベータ株式会社
- ・期間 : 2019年8月27日～29日



福祉施設のお菓子やお弁当を、スタッフとともに会社のロビーで販売

・職場体験学習

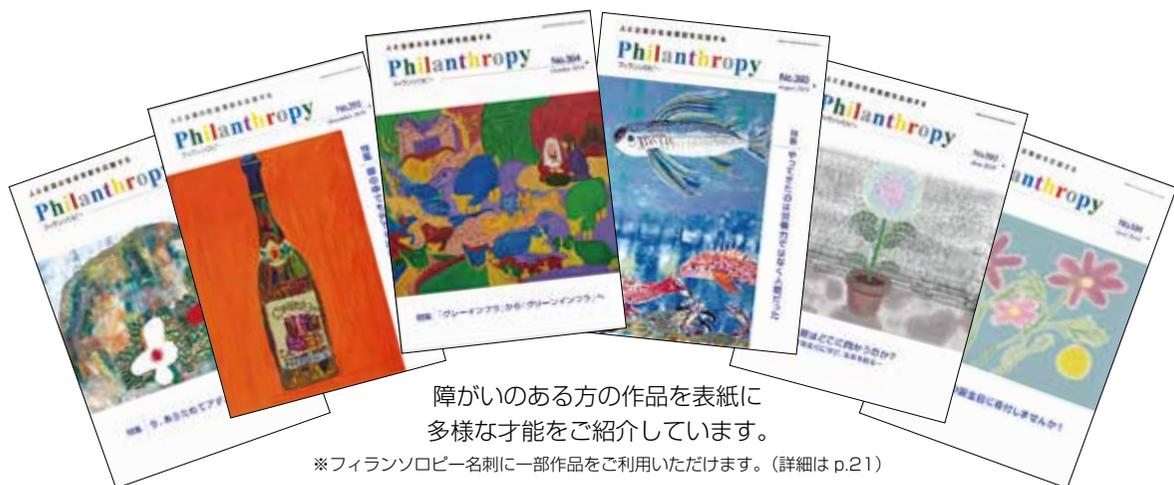
ICT企業の仕組みと「障がい者」をテーマに。地域の福祉施設が、同社で実施する月1回のマルシェを手伝いながら、障がい者について、企業と地域の障がい者福祉団体・施設との関係について学ぶことができました。

出版事業

フィランソロピーを拡げる啓発活動としての出版事業。
2020年2月現在で396号となる機関誌『フィランソロピー』
(隔月発行)では、社会課題を特集として企画。
企業の先進事例や個人・NPOの活動を紹介しています。

機関誌『フィランソロピー』

1992年創刊



障がいのある方の作品を表紙に
多様な才能をご紹介します。

※フィランソロピー名刺に一部作品をご利用いただけます。(詳細は p.21)

2019年度 発行月 (No.)	特集テーマ/巻頭インタビュー
4月号 (No.391)	特集：あなたの誕生日に寄付しませんか！ 巻頭：「生まれた日に 母への想いをこめて」 加藤 登紀子 さん (シンガーソングライター)
6月号 (No.392)	特集：人間はどこに向かうのか？～生物進化に学び、未来を創る～ 巻頭：「五感で他者とつながる この人類の原点を失ってはいけない」 山極 壽一 氏 (京都大学総長)
8月号 (No.393)	特集：やってきたのは労働力ではなく人間だった 巻頭：「人口減少は止まらない 移民が日本を豊かにする」 毛受 敏浩 氏 (公益財団法人日本国際交流センター 執行理事)
10月号 (No.394)	特集：「グレーインフラ」から「グリーンインフラ」へ 巻頭：「自然と人、人と人が共に生き 未来につながる空間を再構築する」 福岡 孝則 氏 (ランドスケープ・アーキテクト、東京農業大学准教授)
12月号 (No.395)	特集：塀の中でも外でも出番をつくる 巻頭：「企業が支援する塀のない刑務所の挑戦」 曾我 哲司 氏 (株式会社新来島どっく 代表取締役社長)
2月号 (No.396)	特集：今、あらためてアダム・スミスに学ぶ 巻頭：「今、あらためてアダム・スミスの思想に学ぶ」 堂目 卓生 氏 (大阪大学総長補佐、大学院経済学研究科教授)

ホームページでは、巻頭インタビュー全文をご覧いただけます。
<https://www.philanthropy.or.jp/magazine/>

職員紹介

当協会の最高位の理念ともいうべき「誰も取り残さない社会」の実現を目指して、理事長の強きリーダーシップの下、職員たちは日々懸命に、新たな事業の創出に取り組んでいます。そんな彼らを、常務理事/特定行政書士として、法務・行政・コンプライアンスの部分から支援し、気持ちよく仕事のできる環境づくりに努力しています。

(倉光恭三・常務理事/特定行政書士)

社会課題が複雑化する中で、自然災害も多く発生し、肥大化したりこぼれ落ちたりする課題に対して、課題を正確に捉えること、多様化するセクター間が協業することの必要性を強く感じています。社会課題への解決に向けて、自ら考えて動いていきます。

(石川紗織)

機関誌の編集をしています。社会課題や新たな価値創造に取り組む多様な方々のお話を聞き、先進事例などを紹介しています。社会課題が複雑に構造化されるなかで、さらにコロナ禍という受難。改めて他者を思うことの大切さについて考えています。

(近藤尚子)

総務・経理を担当しています。在宅勤務が続く中、緊急事態宣言が解除され職員が一堂に会したときには、オンラインでは伝わらない一人ひとりのリアルな身体が発する波動に喜びを感じました。働き方が変化していく中でその事は忘れないようにしたいと思います。

(谷村節子)

某メーカーは通勤という概念を無くして、テレワークを全面導入するそうです。改めて「通勤」、「オフィス」の意味を考えています。当たり前を考え直すことが社会を変えることにつながるのかもしれないね。「ワーク」にも「ライフ」にも活かしたいと思います。

(畠山礼光)

顕彰事業や助成事業、企業の社会貢献プログラムの支援業務を担当しています。感動や素晴らしい方々に出会えることが仕事の魅力ですが、各地で、もっと多くのフィランソロピー活動がさり気なく、かつ本気で行なわれているのだと思います。そんな「さり気なさ」と「本気」をキャッチできる人間でありたいと思います。

(宮本栄)

東京オリンピック・パラリンピック後のレガシーをどうするかとともに、with/after コロナの社会貢献活動をどうするか考えていかなくてはと思います。そのためにさまざまな方々とオンライン/オフラインでのコミュニケーションを取りながら学んでいきたいと思っています。

(青木高・事務局長)

フィランソロピー活動に関わる企業、非営利団体、個人の方々と日々仕事をする中で、それぞれ立場や思いの異なる人々の間を繋ぎ、価値を生み出していくことのお役に立てるよう努力していきたいと思っています。

(内田陽子)

NPOと企業社員をつなぐボランティアウェブ等を主に担当しています。環境系NPOを経て2020年2月に入職し、さまざまな社会課題に触れ、勉強の日々です。人と人がつながることが課題解決の力になるとの思いから、1つでも良かったと言っていただけるご縁をつくるお手伝いができたらと思っています。

(高野江美)

セミナー等を担当しています。自然災害や環境問題など、私たちを取り巻く世界が大きく変化する中で起きたコロナ禍。それは私たちの生き方の問題点を再認識させる警告のようにも感じます。今、まさに歴史の転換点のただ中にいることを実感しながら、少しでも社会に貢献してゆきたい。

(藤原美樹)

インターンとして始め、最初はできることが少なかったのですが、周りの助けもあり、日々成長を実感しています。「あげます・もらいます」という事業を担当しています。ご提供品を必要とする団体に橋渡しします。ご利用いただければ幸いです。

(村井大士)



協会の事業をもっと知っていただくために、2020年2月から職員が自ら動画を撮影する取り組みを始めました。ITにそれほど強くない職員ばかりですので、試行錯誤しながら作成しています。協会ホームページでも掲載していますので、ぜひご覧ください。
<https://www.philanthropy.or.jp/cms/video/>



寄付マッチングプログラム（NPO への支援）2019 年度 実績

寄付元企業	寄付先団体	寄付元企業	寄付先団体
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル Inc	公益財団法人 熊本YMCA	株式会社ジェーシービー	特定非営利活動法人 じぶん未来クラブ 一般財団法人 オーバーザラインボウ基金 一般社団法人 三陸ひとつなぎ自然学校 特定非営利活動法人 HERO NPO 法人 みやっこベース 公益社団法人 こどもみらい研究所 一般社団法人 aichikara 一般社団法人 Bridge for Fukushima 特定非営利活動法人 釜石東部漁協管内復興市民会議 一般社団法人 イシノマキ・ファーム 認定特定非営利活動法人 環境リレーションズ研究所 特定非営利活動法人 熱気球運営機構 特定非営利活動法人 つなかりデザインセンター・あすと長町 特定非営利活動法人 カリタス釜石 特定非営利活動法人 居場所創造プロジェクト 任意団体 地域支援団体釜石支援センター望 特定非営利活動法人 総合型りくぜんたかた 一般社団法人 チーム王冠 公益社団法人 3.11 みらいサポート 特定非営利活動法人 移動支援 Rera 一般社団法人 ウィアーワン北上 特定非営利活動法人 ワンファミリー仙台 一般社団法人 みやぎ連携復興センター 特定非営利活動法人 ふくしま 30 年プロジェクト 特定非営利活動法人 ふよう土 2100 一般社団法人 こころスマイルプロジェクト 特定非営利活動法人 ボラリス 特定非営利活動法人 こども∞（むげん）感ばにー 認定特定非営利活動法人 心の架け橋いわて
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	公益財団法人 あすのぼ 特定非営利活動法人 ACE 特定非営利活動法人 ReBit		株式会社電通アドギア
株式会社かんぽ生命保険	特定非営利活動法人 北海道森林ボランティア協会 特定非営利活動法人 もりねっと北海道 特定非営利活動法人 吉里吉里国 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会 特定非営利活動法人 白神ネイチャー協会 NPO 法人 いわきの森に親しむ会 特定非営利活動法人 穴塚の自然と歴史の会 特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地 特定非営利活動法人 フォレストぐんま 21 特定非営利活動法人 竹もりの里 特定非営利活動法人 よこはま里山研究所 特定非営利活動法人 JUON（樹恩）NETWORK 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所 特定非営利活動法人 かみえちご山里ファン倶楽部 特定非営利活動法人 きんたろう倶楽部 特定非営利活動法人 角間山みらい 特定非営利活動法人 しずおか環境教育研究会 特定非営利活動法人 穂の国森づくりの会 特定非営利活動法人 森林の風 特定非営利活動法人 里山保全活動団体遊林会 特定非営利活動法人 里山ねっと・あやべ NPO 法人 森林ボランティアトモロス 特定非営利活動法人 豊かな森川海を育てる会 特定非営利活動法人 自然回復を試みる会・ピオトープ孟子 特定非営利活動法人 もりふれ倶楽部 特定非営利活動法人 ひろしま人と樹の会 特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク 特定非営利活動法人 朝霧森林倶楽部 特定非営利活動法人 山村塾 特定非営利活動法人 おおむら里山村づくり委員会 特定非営利活動法人 天明水の会 特定非営利活動法人 アイラブグリーン大分 特定非営利活動法人 森と木の研究所 特定非営利活動法人 おきなわグリーンネットワーク	株式会社電通アドギア	公益財団法人 みらいファンド沖縄
Fidelity Asia Pacific Foundation	特定非営利活動法人 アスイク	東京海上日動あんしん生命保険株式会社	特定非営利活動法人 認知症フレンドシップクラブ 特定非営利活動法人 難病のこども支援全国ネットワーク 特定非営利活動法人 日本クリニクラウン協会

寄付元企業	寄付先団体	寄付元企業	寄付先団体
TOYO TIRE 株式会社	任意団体 海洋環境防災調査研究会 任意団体 小千谷市の棚田を守る会 特定非営利活動法人 NPO クワガタ探検隊 特定非営利活動法人 公益のふるさと創り鶴岡 特定非営利活動法人 おおいた環境保全フォーラム 特定非営利活動法人 棚田 LOVER's 特定非営利活動法人 すいた環境学習協会 任意団体 黒松内ぶなの森自然学校運営協議会 NPO 法人 くまもと未来ネット 特定非営利活動法人 スパ・ランカ協会 特定非営利活動法人 里山倶楽部 特定非営利活動法人 エコ・コミュニケーションセンター 任意団体 高砂海浜公園海辺の保全集いの会 特定非営利活動法人 ニランジャンサワサン 特定非営利活動法人 R.I.La 特定非営利活動法人 小網代野外活動調整会議 特定非営利活動法人 SoELa 一般社団法人 BC-ROBOP 海岸工学会 一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会		特定非営利活動法人 抱樸 特定非営利活動法人 ソルト・パヤタス 特定非営利活動法人 Class for Everyone 特定非営利活動法人 SEEDS Asia (社員ボランティア先から選出) 特定非営利活動法人 災害救援レスキューアシスト 特定非営利活動法人 アジアの障害者活動を支援する会 特定非営利活動法人 特定非営利活動法人 T E R A C O 特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブオリブ 特定非営利活動法人 病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア
株式会社ファンケル	公益財団法人 みちのく未来基金 特定非営利活動法人 ツリーフィールド 石狩事業所 生活介護あいあい 特定非営利活動法人 わいはいしらかば 青森市地域活動支援センター WaiWai はうすコスモス 社会福祉法人 訪問の家 (生活介護事業所 朋) 特定非営利活動法人 障害者支援グループ昂 社会福祉法人 松原愛育会 石川療育センター 特定非営利活動法人 めくもり 社会福祉法人 千翔会 社会福祉法人 じねんじょ 特定非営利活動法人 歩 特定非営利活動法人 ニコちゃんの会	株式会社ゆうちょ銀行	特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド 特定非営利活動法人 わたりグリーンベルトプロジェクト 特定非営利活動法人 足尾に緑を育てる会 NPO 法人 暮らし・つながる森里川海 特定非営利活動法人 ふるさとの森づくりセンター 特定非営利活動法人 新潟水辺の会 特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所 特定非営利活動法人 サンクチュアリエヌビーオー 特定非営利活動法人 加茂女 特定非営利活動法人 西中国山地自然史研究会 特定非営利活動法人 由良野の森 特定非営利活動法人 おおいた環境保全フォーラム 特定非営利活動法人 おきなわグリーンネットワーク
株式会社三井住友銀行 ボランティア基金	(テーマ選出) 特定非営利活動法人 女性ネット Saya-Saya 特定非営利活動法人 海さくら 特定非営利活動法人 3keys 特定非営利活動法人 生活相談サポートセンター 特定非営利活動法人 キャリア・デザイナーズ 特定非営利活動法人 ちば MD エコネット 特定非営利活動法人 メドゥサン・デュ・モンド ジャポーン 特定非営利活動法人 エンパワメントかなかわ 特定非営利活動法人 にわたりの会 特定非営利活動法人 青少年自立支援施設談路ブラッツ 特定非営利活動法人 ノーベル	株式会社 LIFULL	特定非営利活動法人 駆け込みシェルター釧路 特定非営利活動法人 フェミニストサポートセンター・東海 特定非営利活動法人 女のスペース・にいがた 特定非営利活動法人 女性のスペース「結」 社会福祉法人 カリヨン子どもセンター 特定非営利活動法人 子どもシェルターぐんま 特定非営利活動法人 子どもセンター・ビッピ 特定非営利活動法人 なんみんフォーラム 一般社団法人 つくろい東京ファンド
ブリティッシュ・ アメリカン・タバコ・ ジャパン合同会社	特定非営利活動法人 あつま森林むすびの会	個人 1 名	お金でまなぶさんすう

財務データ

貸借対照表

(2020年3月31日現在)

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 預 金	41,867,012	38,711,784	3,155,228
普 通 預 金	41,080,305	38,224,217	2,856,088
郵 便 貯 金	786,707	487,567	299,140
未 収 金	22,114,971	11,759,424	10,355,547
前 払 費 用	3,585,086	1,621,174	1,963,912
立 替 金	146,586	278,650	△ 132,064
仮 払 金	40,200	150,000	△ 109,800
貯 蔵 品	281,636	333,812	△ 52,176
流動資産合計	68,035,491	52,854,844	15,180,647
2. 固定資産			
(1) 基 本 財 産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特 定 資 産			
役 員 退 任 慰 労 引 当 資 産	14,875,000	14,075,000	800,000
職 員 退 職 給 付 引 当 資 産	4,095,200	4,666,000	△ 570,800
受 取 寄 付 金 資 産	113,042,053	131,874,993	△ 18,832,940
受 取 助 成 金 資 産	0	15,590,400	△ 15,590,400
普 及 啓 発 事 業 等 積 立 資 金	42,600,033	46,791,580	△ 4,191,547
特定資産合計	174,612,286	212,997,973	△ 38,385,687
(3) そ の 他 固 定 資 産			
建 物 附 属 設 備	6	3,285	△ 3,279
什 器 備 品	97,117	145,663	△ 48,546
ソ フ ト ウ ェ ア	3,693,523	3,118,316	575,207
電 話 加 入 権	4	4	0
その他固定資産合計	3,790,650	3,267,268	523,382
固定資産合計	178,402,936	216,265,241	△ 37,862,305
資産合計	246,438,427	269,120,085	△ 22,681,658
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	5,009,683	10,291,502	△ 5,281,819
前 受 金	234,075	9,946,194	△ 9,712,119
仮 受 金	640,000	500,000	140,000
預 り 金	793,474	1,623,535	△ 830,061
未 払 消 費 税 等	4,505,200	2,359,400	2,145,800
賞 与 引 当 金	2,894,000	2,571,500	322,500
流動負債合計	14,076,432	27,292,131	△ 13,215,699
2. 固定負債			
役 員 退 任 慰 労 引 当 金	14,875,000	14,075,000	800,000
職 員 退 職 給 付 引 当 金	4,095,200	4,666,000	△ 570,800
固定負債合計	18,970,200	18,741,000	229,200
負債合計	33,046,632	46,033,131	△ 12,986,499
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	113,042,053	147,465,393	△ 34,423,340
指定正味財産合計	113,042,053	147,465,393	△ 34,423,340
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(113,042,053)	(147,465,393)	(△ 34,423,340)
2. 一般正味財産	100,349,742	75,621,561	24,728,181
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(42,600,033)	(46,791,580)	(△ 4,191,547)
正味財産合計	213,391,795	223,086,954	△ 9,695,159
負債及び正味財産合計	246,438,427	269,120,085	△ 22,681,658

正味財産増減計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取員会費	23,702,000	22,955,200	746,800
正会費	10,200,000	10,560,000	△ 360,000
賛助員受取会費	13,502,000	12,395,200	1,106,800
事業収益	104,715,746	94,604,640	10,111,106
公1. 社会貢献啓発事業収益	258,475	252,838	5,637
公2. 社会貢献促進事業収益	103,228,920	93,304,285	9,924,635
公3. 共生社会創造事業収益	1,228,351	1,047,517	180,834
受取助成金	18,092,652	25,235,278	△ 7,142,626
受取寄付金	280,110,036	230,487,249	49,622,787
受取利息	3,117	2,545	572
受取雑収益	2,617	2,545	72
経常収益計	426,623,551	373,284,912	53,338,639
(2) 経常費用			
事業費	389,816,424	355,909,043	33,907,381
(公1 社会貢献啓発事業費)	10,911,022	9,029,532	1,881,490
(公2 社会貢献促進事業費)	369,258,030	326,391,505	42,866,525
(公3 共生社会創造事業費)	8,452,496	18,778,771	△ 10,326,275
(公益共通事業)	1,194,876	1,709,235	△ 514,359
管理費	12,078,946	11,644,536	434,410
経常費用計	401,895,370	367,553,579	34,341,791
当期経常増減額	24,728,181	5,731,333	18,996,848
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	24,728,181	5,731,333	18,996,848
一般正味財産期首残高	75,621,561	69,890,228	5,731,333
一般正味財産期末残高	100,349,742	75,621,561	24,728,181
II 指定正味財産増減の部			
受取助成金	0	21,201,031	△ 21,201,031
受取寄付金	255,699,888	234,235,131	21,464,757
一般正味財産へ振替	△ 290,123,228	△ 230,926,989	△ 59,196,239
当期指定正味財産増減額	△ 34,423,340	24,509,173	△ 58,932,513
指定正味財産期首残高	147,465,393	122,956,220	24,509,173
指定正味財産期末残高	113,042,053	147,465,393	△ 34,423,340
III 正味財産期末残高	213,391,795	223,086,954	△ 9,695,159

会員数／役員

会員数の推移

	2015年度末	2016年度末	2017年度末	2018年度末	2019年度末
正会員(法人)	33	29	27	26	25
賛助会員(法人)	81	88	93	101	102
賛助会員(個人)	83	88	91	94	84

会員一覧は、ホームページでご覧いただけます。

<https://www.philanthropy.or.jp/aboutus/membership/>

役員・顧問

会長	浅野 史郎	神奈川大学特別招聘教授／元・宮城県知事
副会長	田中 克人	東北福祉大学特任教授
● 理事長	高橋 陽子	
● 常務理事	倉光 恭三	
理事	井関 利明	慶應義塾大学名誉教授
理事	太田 達男	公益財団法人公益法人協会 会長
理事	木全 ミツ	認定特定非営利活動法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に 前会長・理事長
理事	河野 通和	株式会社ほぼ日 取締役 ほぼ日の学校長
理事	佐藤 雄二郎	株式会社共同通信社 代表取締役社長
理事	長島 剛	多摩大学経営情報学部教授
理事	永田 俊一	三菱 UFJ 信託銀行 信託博物館 館長
理事	藤原 作弥	エッセイスト／元・日本銀行副総裁
理事	堀田 力	公益財団法人さわやか福祉財団 会長
理事	村木 厚子	津田塾大学客員教授／元・厚生労働事務次官
理事	山崎 美貴子	東京ボランティア・市民活動センター所長
監事	奥川 貴弥	弁護士
監事	尾崎 輝郎	公認会計士
顧問	松岡 紀雄	神奈川大学 名誉教授

(●印は常勤、2020年7月1日現在)

memo

2019年度 ANNUAL REPORT

2020年8月1日 発行

発行：公益社団法人 日本フィランソロピー協会

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 244

TEL：03-5205-7580

FAX：03-5205-7585

URL：<https://www.philanthropy.or.jp>

<https://www.facebook.com/philanthropy.or.jp/>

<https://twitter.com/JPNphilanthropy>



お問い合わせはこちらへ



(最寄駅)

- JR「東京駅」丸の内北口より徒歩5分
- 地下鉄「大手町駅」B3出口直結
(東京メトロ丸ノ内線/千代田線/東西線/半蔵門線、都営地下鉄三田線)